

NAOKI SEKINE



せきね・なおき ●昭和55年6月生まれ。西山字水口在住。前花月庭園(赤坂西野)取締役。趣味は読書。座右の銘は「石橋を叩いて渡る」

現在、私は鮫川村商工会青年部の部長を務めさせていただいております。私たち青年部の歴史は、花火とともに歩んできたといっても過言ではないでしょう。現在の村長が始められた花火大会も今年で三十五回目を迎え、今年も皆さまのおかげで無事開催することができました。

村民【随想】リレー 184

関根巨樹さん

「おかえりなさい」

「えりなさい」と言っておけると同じことだと思っております。これが生まれ育ったふるさとにできる小さな恩返しだと感じております。

赤とんぼ火の用心の標語貼る
中井 恒峯
迷惑をかけまいと九十二才の秋
小松ハル工
バインダー稲刈るリズム軽やかに
北條素人坂
峡の秋茶髪の案山子風に立つ
松本 精一
アケビ食む口に溢れる懐かしさ
前田 縫子
台風一過夕焼け残し北へ行く
齋須 信子
名月に一人の夕餉見つめられ
黒田 寿香
鼻っ風台風一過おき土産
土竜 庵
平泉義経伝説秋の旅
山本 恵子
峡の道曲るや蕎麦の花ざかり
鈴木 米子
誰を待つと秋海棠の花の列
山本五十鈴

短歌

ドクダミを採り来て千せば咽るよ
う匂いに慣れて千し竿返す
鈴木イミ子
弱腰の外交いつまで続くやら永田
町は止めよ足の引き合いを
前田 初
母親より贈られし着物を宝とす今
日も出しぬ虫千しの日に
佐藤 春枝
わが作る野菜の出来を噛みしめて
おれば近くにホーホケキヨの声
矢吹 定子
朝顔の花蔓伸びし舗装なる割れ目
なれども取らずに咲かす
須藤 幸子
小松菜のみどりに宿る露の玉触れ
れば瑠璃に光りて落つる
水野 珠子

さめがわを 彩る集い 20

大正琴を通して得られる交流と達成感



西山スマイル

関根悦子代表/会員 11名

村内外で大正琴の演奏を披露している西山スマイル。宇津木先生(棚倉町)を講師に、月二回の練習をしています。大正琴は、左手で鍵盤、右手で弦を弾いて音を出すため、初めは覚えるのに苦労したといえます。現在でも個人練習を欠かしません。「指を動かして頭も使うから、ボケ防止になる」という声も聞かれました。

Book

図書館の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介
鮫川村図書館 ☎ 29-1150

家族写真

(萩原浩著、講談社)



男手ひとつで育てた娘の結婚、加齢に肥満、マイホーム購入、父親の脳梗塞…。家族に訪れる悲喜こもごもは、ささやかだけれど大事件。うっとおしいけどいと困る家族、家族っていいなと思える短編集です。

おおやまさん

(川之上英子・川之上健著、岩崎書店)



いつもこわい顔をしているおおやまさん。幼稚園バスの運転手さんです。ボスゴリラのように怒るっていうけど、本当かな? でも、ほくはある日、見てしまったのです。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

新しき家の習いと思いつつ曾孫の伝う言葉噛みしむ
関根 瑞恵
考への深さを友に認め来て今日も改むわが生き方を
満井 清乃
農の手は休む暇なし畑にはびっしりと立つ雑草のありて
坂本 伊紀
鈴を経てわが生き方に修正のあれこれ数う誌を繰りにつ
一平 子
八百人仲の一人の誇りなる希望も新たな敬老会に
石井 幸子
又来ると帰るその友土残し忙しく畑にと働くを知る
須藤シツ工
異常気象梅雨も明けず秋風が黄金波打つ田の面をなでる
松本 一郎
一面の荒れ畑よりのススキ穂を供えて仰ぐ仲秋の名月
前田喜三子
あれこれと忙しき我が今日も又庭の花にも心を寄せて
関根ヨネ子
娘より退院の知らせほっとする電話片手に胸なで下ろす
藤田千代子
縁側に席を移して古い二人虫の音聞きつつ名月仰ぐ
関根ハナヨ
虫達の喜々と鳴きだす荒れ畑に立てば過去なる麦時き惚ぶ
関根 富久
仲秋の名月仰ぎ供えたるすすきに姉の面影の顔つ
板橋 源良
わが農もいつまでならん運搬車七十歳の今年購う
関根キヌ子
県民の心さかなで五輪受け原発発言水漏れ続くに
矢吹 一二
冷気呼ぶ仲秋の名月仰ぎつつ移ろう季節の早きを思う
北條 平

若者の広場 No.107

Young Plaza

塩田貴史さん

■今、夢中になっていることは何ですか？

車をいじるのが好きです。休みの日など、時間があると車いじりをしていることが多いです。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

元々、バス釣りをしていたので、今年はワカサギ釣りを始めてみようと思っています。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

やっぱり、鮫川村は緑が多くて自然豊かな所という

のが一番です。人が多い場所や店などに並んだりすることが苦手なので、自分には鮫川村みたいな田舎が合っていると思います。

■鮫川村に要望などはありますか？

鮫川村の悪いと思うところが無いので、要望は思いつきません。あえて言うなら、遅い時間までやっている、ちょっとした物が買えるコンビニのような店があるといいです。

■次は、塩田弘樹さん（石井草字関ノ上在住）の予定です。

自分には鮫川村が合っている



しおだ・たかし
平成4年1月20日生まれ 21歳
B型 やぎ座
趣味は車いじり
石井草字森ノ前在住



舟戸海岸で磯遊びを満喫

海を満喫！いわき宿泊学習
九月十日、十一日に、全校生でいわき海浜自然の家へ宿泊学習に行きました。
一日目は、夕月かまぼこ工場でのちくわづくりや四倉海岸での砂の芸術、自然の家でのキャンドルファイヤーを体験しました。砂の芸術では、自分たちで考えたお城や鮫などの作品づくりに夢中になって取り組みました。二日目は、舟戸海岸での磯遊び。磯辺の生き物や珍しい貝を見つけて

学校だより

(109)

青生野小学校編

プロ選手、水沼さんが来たサッカー教室

大興奮。全校生の絆が深まった二日間でした。

十月九日に、サッカーの元全日本選手・水沼貴史さんをはじめ、スタッフ総勢十一名が青生野小学校に本校！

楽しく分かりやすいお話のもと、ボール遊びをしたり、バスやシュートの方法を教わったりしました。やはりプロの選手は違いますね。シュートする姿も格好いい。最後に、ボールや室内用ゴールポストなどのプレゼントをいただきました。これからも、体力づくりに取り組んでいきます。



水沼さんたちと記念撮影

(文・写真)青生野小学校

お孫さんの誕生日に作ったタペストリー。今でもお孫さんの部屋に飾られています。



人形や服などを作ったおばあちゃんの影響で、小さいころから裁縫が好きだったという水野洋子さん。平成八年に公民館事業で開かれた「パッチワーク教室」にも、すぐに申し込んだと言います。教室終了後も、参加者で「パッチワーク愛好会」を結成し、村の文化祭に出展するなどの活動を続けています。

材料となる布は、昔から家にあるものを使うのが好み。母親が着ていた着物や洋子さんが嫁入りの際に作ってもらった着物など、思い出がつまった布が作品に入っているとうれしくなるそうです。布の材質や配色を考えるところが、パッチワークの難しいところ。しかし、作品が仕上がったときの喜びはもちろん

ですが、作る過程で試行錯誤しながら作り上げていくことが楽しいと話します。「納得できる物はなかなか作れません。まだまだです。今は、女の子の孫二人がお嫁に行く前にベットカバーを作ったあげたいです」と目標を話してくれました。洋子さんの創作意欲が尽きることはありません。

あなたの光る技 キリの Vol.16



一針一針に思いを込めて縫っていきます。好きだからこそ、いくら縫っていても苦にならないそうです。

パッチワーク 水野洋子さん

みずの・ようこ/赤坂東野字広畑在住/73歳

思い出つまった布をつなぎ合わせて作る過程を楽しむ